平成30年度（2018年度）相談支援連絡会 活動報告書

１．活動目的

「今ある制度やサービスだけでは解決できない課題」や「繰り返し起こっている、類似の課題」を集め普遍化し、明石市地域自立支援協議会へ提言や問題提起をおこなうことで、「障がいのある人が暮らしやすい地域づくり」に寄与します。

２.コアメンバー

うみのほしウエスト相談支援事業所	石　田　育　大
相談支援事業所 そよかぜ（明石市立あおぞら園）	向　井　美　貴
相談支援事業所 居場所	土　屋　直　美
（事務局）明石市基幹相談支援センター	柴　田　　愛
（事務局）明石市基幹相談支援センター	石　田　香緒里

３．相談支援連絡会の基本プログラム

開催日時：毎月第４水曜日　１０：００～１１：３０

内　　容：１０：００～１０：３０　社会資源紹介

１０：３０～１１：３０　グループセッション

（１１：３０～１２：００）コアメンバーと事務局で振り返り

４．活動実績

【開催日・参加人数】

	開催日	参加人数
第１回（平成30年（2018年））	４月２５日（水）	14名（12事業所）
第２回	５月２３日（水）	13名（12事業所）
第３回	６月２７日（水）	11名（10事業所）
第４回	７月２５日（水）	10名（８事業所）
第５回	８月２２日（水）	13名（８事業所）
第６回	９月２６日（水）	10名（９事業所）
第７回	１０月２４日（水）	11名（９事業所）
第８回	１１月２８日（水）	10名（８事業所）
第９回	１２月２６日（水）	18名（14事業所）
第10回（平成31年（2019年））	１月２３日（水）	11名（９事業所）
第11回	２月２７日（水）	22名（15事業所）
第12回	３月２７日（水）	10名（８事業所）

【社会資源紹介 参加事業所】

就労移行支援事業所	Small　Steps なゆた
就労継続支援Ｂ型事業所	Small Steps ゆくい、アンデルセン、江井ヶ島作業所、リーフあかし、みらくる、
生活介護	Open　Goal、
児童発達支援事業所	アンデルセン、
放課後等デイサービス	アンデルセン、アモル
居宅介護	土屋訪問介護事業所 明石、

【意見交換、講義、説明会等】

▼平成30年（2018年）4月25日（水） ①「明石市の障害福祉について考える」 講師：明石市福祉局 生活支援室 障害福祉課 自立支援係　藤井　秀明氏 ②「平成30年度（2018年度）のグループスーパービジョン実施について」 説明：明石市基幹相談支援センター　橋田　浩氏、足立　麻子氏
▼平成30年（2018年）6月27日（水） 「総合リハ高次脳機能障害相談窓口について」 講師：（社福）兵庫県社会福祉事業団　相談支援コーディネーター　藤坂　幸広氏
▼平成30年（2018年）7月25日（水） 「しごと部会『就労支援サポートブック』作成について」 説明と意見交換：しごと部会 事務局　南部　丈晴氏
▼平成30年（2018年）8月22日（水） 「『地域移行、地域定着』及び『医療的ケア児の支援』の現状と今後について 意見交換：明石市福祉局 生活支援室 障害福祉課 計画係　幸田　秀樹氏
▼平成30年（2018年）11月28日（水） 「望海地区で行っている災害に対する備えについて」 講師：にしあかし総合支援センター 社会福祉士　荒家　央毅氏
▼平成30年（2018年）12月26日（水） 「相談支援専門員のための地域自立支援協議会活用法」 講師：兵庫県立大学　准教授　竹端　寛氏
▼平成31年（2019年）2月27日（水） 「報酬改定に伴う相談支援業務について」 説明：明石市福祉局 生活支援室 障害福祉課 自立支援係 藤井　秀明氏、海藤　良輔氏

▼平成31年（2019年）3月27日（水）
「花園地区の『地域支え合いの家』について
　講師：にしあかし総合支援センター 生活支援コーディネーター　山岡　和希氏

【グループセッションででた意見】

▼障害福祉サービスについて
（移動支援）
・事業所への通所に使えたらと思う。
（地域移行・地域定着）
・電気やガスが止まっていると、ヘルパー経由で相談員に連絡が入ることがあり、普段からどのように対応しておくのがよいか考える事があった。地域定着のサービスに繋げられないか。
（短期入所）
・受給者証のない人が緊急でショートステイを使いたい場合どうしたらいいのか。

▼余暇支援
・就労継続支援Ａ型に通所している利用者が夕方から過ごせる場所がないか。

▼介護保険と障害福祉サービスについて
・障害福祉サービス利用者で、介護保険は「非該当」になることが見込まれる利用者であっても、毎年介護保険申請をするように言われる。状態が悪くなってからの申請にならないか。
・行政からは 65 歳になる 30 日前に介護認定の申請を行うようにと言われているが、それでは間に合わない。２か月前から申請できると余裕をもって対応できる。
・介護保険では障害福祉サービス利用の時と同じだけのサービス量がでない。本人にとって不利益ではないか。
・介護保険は精神障害者や高次脳機能障害者に支援がいる事が反映されていないのではないか。

▼防災について
・災害が起きた時、相談員はどこまですればいいのか。
・災害時は相談員も被災していることが想定されるので、平素にできる事を考えておくことが必要。
・利用者宅の冷蔵庫に、緊急連絡先を書いた用紙をはっている。
・要援護者リストは誰が管理し、どのように活用されるのかを知りたい。

▼サービス提供事業所や学校との連携について

・サービス提供事業所から「個別支援計画」をもらっているかは、相談員によってまちまち。サービス提供事業所に相談支援専門員のことをまだよくわかってもらえていない。あらためて周知し、もっと連携していく必要がある。
・知らない間に通所先が変更になっている事がある。利用者からも、事業所からも相談員に対し連絡も報告もない。
・特別支援学校から実習に行った事業所に対して、相談員が連絡をとり、進路についての話をしたら、学校から注意を受けた。進路について相談員はどのように関わればいいか。

▼個別ケースについて

・状態が安定しない就労継続Ａ型利用者の支援について他の相談員の意見を聞きたい。
・家族にも何らかの障害の疑いを感じる場合に、その家族にどう対応しているか。
・利用者から「インフルエンザにかかった」と連絡があった時どうするか。
・利用者から「（浪費で）お金がない」「食べるものがない」と連絡があった時どうするか。
・相談員としてできること、出来ないことを線引きが難しい。
・現在、サービスを利用していないが、支援者の訪問が必要と感じ、定期訪問を行っている。計画をたてることができないため無報酬で行っている。
・生活保護受給者で、家賃滞納の為に退去するよう言われたと相談員に連絡が入った。あらかじめ家賃扶助の分を支給する生活費から天引きし、振り込んでもらえたら滞納はなくなるのではないか。代理納付制度が明石市でも行えないか。

▼報酬・加算について

・児童から成人になった際の契約日はいつになるのか。初期加算はとれるのか。
・報酬改定で、採算が取れなくなる。事業所で肩身が狭い。

▼その他

・人材不足について。ヘルパーがおらず調整が難しい。
・相談支援事業所の変更依頼で、受け入れが難しい場合、依頼された相談支援事業所が別の事業所を探さないといけないのは負担が大きい。
・更新時に相談員をとおすことになったが、利用者が相談員を変えたいと思っていた場合、利用者は言い出しにくいのではないか。